

# 膨大な文書分析 ソフトが一役

## 1日半で索引付け 検索しやすく

世界の首脳らによるタックスヘイブ  
ン(租税回避地)の利用実態を暴露した  
「パナマ文書」。国際調査報道ジャー  
ナリスト連合(ICIJ)が、2.6テ  
ラ(文庫本2万6000冊相当)もの  
膨大な情報を分析するために利用した  
のが、オーストラリア製の不正調査ソ  
フト「Nuixインベストイゲーター」  
だ。パナマ文書を検索しやすいように  
インデックス(索引)を付ける時間は、  
1.5日しか、かからないという。

パナマの法律事務所から  
流出した文書の情報量は、  
約480万の電子メールを  
含め計1150万件にも  
ぼる。租税回避地の利用実  
態を明らかにするために  
は、設立されたペーパーカ  
ンパニーなどの会社と要人  
とのつながりを見つける必  
要があった。しかし、網の  
目のように複雑な情報の海  
から、人の目で一つ一つ要  
点を拾い出すのは難しい。

日本で同ソフトを販売す  
る「AOSリーガルテック」  
(本社・東京)の佐々木隆  
なる。(国際部 深沢亮爾)

仁社長によると、同ソフト  
は、電子メールや契約書、  
会社の登記簿などに含まれ  
た情報をコンピューターに  
取り込んで、あらゆるデー  
タにいったん索引をつけ  
る。索引の付け方に特徴が  
あり、例えば世界の首脳の  
名前で検索すれば、関連情  
報がずらりと抽出される。  
電子メールを頻繁にやりと  
りした人の相関図を表示し  
たり、「秘密」という言葉  
を含む情報をすべて一覧に  
したりすることもできる。

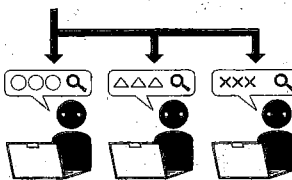
この機能により、相関関係  
を割り出すことができる。  
日本の主な捜査機関で導入  
済みとされ、世界の当局で  
も広く使われている。

しかし、高度なソフトと  
いうハイテクで相関関係を  
浮き彫りにしても調査の端  
緒という側面も強い。課税  
逃れなどの問題を突き止め  
るには本人からの聞き取り  
など地道な作業が不可欠と  
なる。(国際部 深沢亮爾)

### 「Nuixインベストイゲーター」を利用した不正調査のイメージ

① 大量のデータをソフトに取り込む

② 「Nuixインベストイゲーター」が情報をインデックス化



③ キーワードなどで簡単に検索することが可能になる